

「クリーニングドクターの豆知識」その6

クリーニング料金の基準は？店ごとに料金が違うのはなぜ？



クリーニング組合で毎年消費者アンケートを実施していますが、毎回良く出る疑問がこれです。過去に当店でも同様の質問があったので、いつもと趣向を変えてちょいと取り上げてみました。結論から言うとですね～「サービス料なので定価や基準に相当するものではありません」が答えです。毎度ぶっきらぼうな結論ですみません(笑)

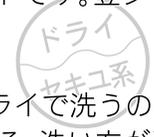
これが販売業であれば、仕入れ値を基準として、メーカー希望価格や定価や相場、があります。それに対し我々はサービス業ですので、サービス内容や付加価値で料金が変わります。例えるなら、同じ一泊でもカプセルホテル→ビジネスホテル→シティホテル→リゾートホテルではサービスの質が異なるし、それは当然料金に反映する…といった感じでしょうか。



少し具体的な例を見てみましょう。
今年4月、初めてのお客様がポリエステルシャツを持って見えました。某大手のクリーニング店に出したシャツを着用したところ、接触した部分の皮膚が炎症を起こしたとの事です。詳しくお話を伺ったところ、どうやらドライクリーニングをした模様です。恐らくドライ溶剤が乾燥不十分で炎症の原因になったと考えられます。洗う側にとってドライは乾燥が早く、シワになりくいというメリットがあります。一方、水洗いをすると(特に綿・麻では)生じたシワが伸びにくく、仕上げに余計に時間がかかります。でも汗汚れはきちんと落ちます。というか、そうでないとクリーニングに出す意味がありません。もちろん当店ではシャツやブラウスは水洗いをしております。直接肌に触れる衣服や寝具は「水洗いが当然」と当店では考えています。でもそうではないお店も実際に相当な割合で存在します。余談ですが、汗をかく夏物のスラックスなどは、ドライと水洗いの2度洗いが断然ベストです。翌シーズンになったら汗で黄ばんでいた…なんてことが防げます(この場合の料金は5割増です)



このように洗い方ひとつを見ても、店ごとに色々な方法で行われています。シャツをドライで洗うのは何も間違っていないし、批判しているわけではありません。それぞれの店にはそれぞれのやり方がある。洗い方が違えば料金も違って来る。仕上げ方法が違えば料金も違う…これで大体理解できたでしょうか？
安いのはそれだけの理由があるだろうし、高いのにもそれだけの理由があります。では何を優先するのか…それは結局はお客様が決めるしかありません。
当店では「その服・その生地に見合った洗い方をする」という当たり前のことを心がけているだけです。恐らく他店より水洗いの比率がかなり多いはずですが、仕上がりが具合は目に見えます。でもどういう洗い方をしているかはお客様の目には決して見えません。楽をしようと思えばいくらでも出来る部分です。少し怖くなりませんか？
もし納得いただけたら、また当店をご利用ください。



古川クリーニング

宮崎市瀬頭2丁目2-14
お問い合わせは

0985
22-7808

